

医療情報連携ネットワーク支援Naviについて

(参考) 厚生労働省データヘルス改革における最近のトピックス



平成29年6月1日

第21回日本医療情報学会春季学術大会 HELICSチュートリアル

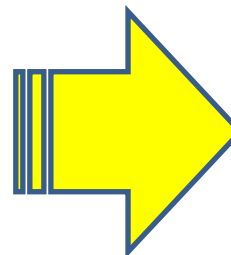
厚生労働省医政局研究開発振興課医療技術情報推進室

室長補佐 田川 幸太

(いわゆる) 地域医療情報連携ネットワークとは・・・

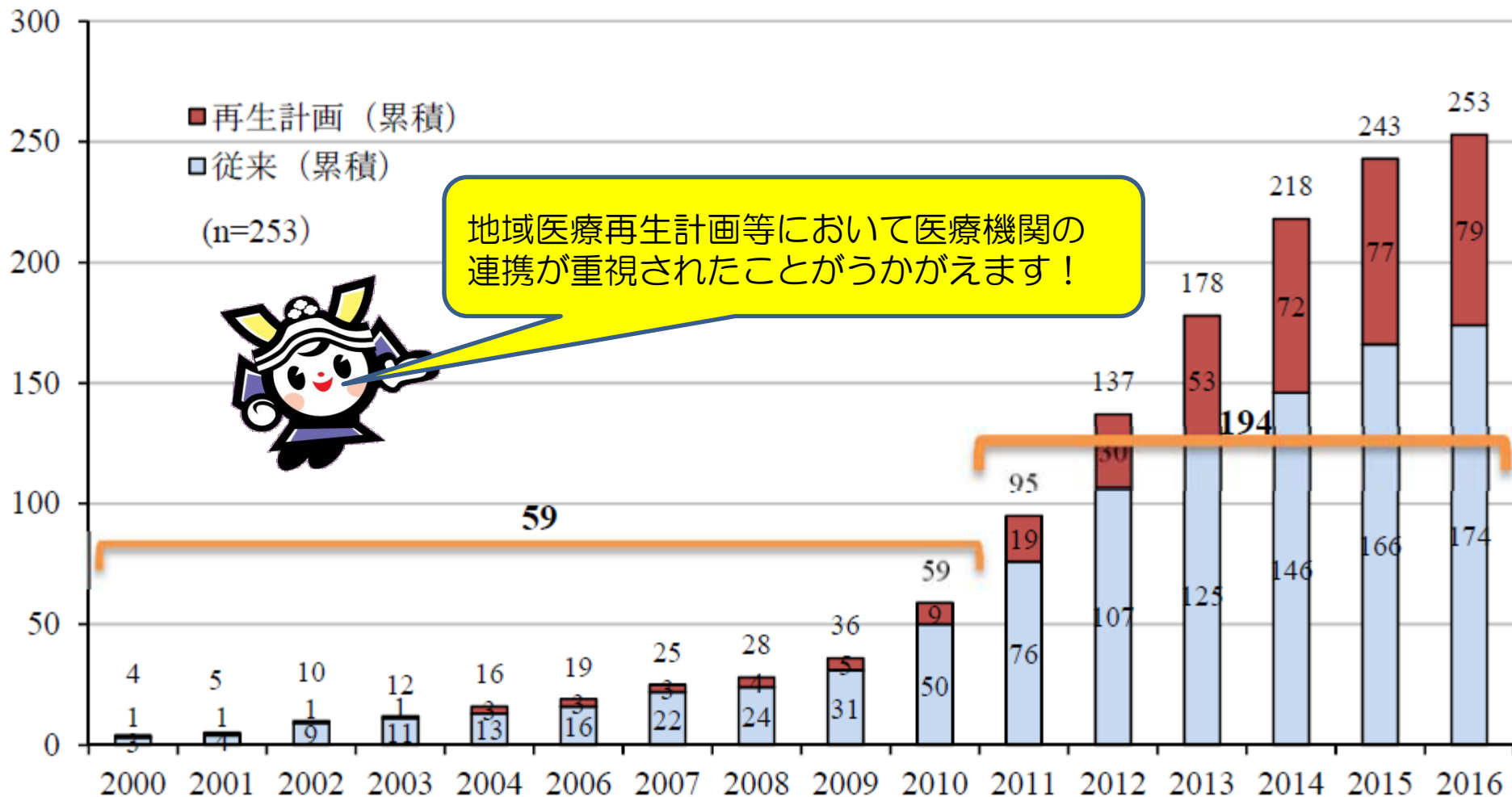


患者・住民が住み慣れた地域で質の高い保健医療サービスを受けられるよう、地域において医療機関・薬局・介護事業者等が患者の保健医療情報をICTにより共有する仕組みと言えます！



各所にある医療情報を共有して質の高い医療を提供

医療情報連携ネットワークは年々増加している！



出典：日医総研ワーキングペーパー「IT を利用した全国地域医療連携の概況(2015年度版)」

← 地域医療再生計画 →

← 新基金 →

地域で新たに地域医療情報ネットワークを立ち上げようとする...



運営主体はどうしたらいいんだ...

医療機関の合意をどう取り付けようか...

NW構築は誰に頼めばいいんだろう...

コストはどうやって調達していこうか...

WEBにおいて各地の好事例を共有する取り組みが
「医療情報連携ネットワーク支援Navi」です！

医療情報連携ネットワーク支援Navi

- ✓ 「世界最先端IT国家創造宣言」や「日本再興戦略」等の政府戦略において、平成30年度までを目標に医療情報連携ネットワークの全国各地への普及を図ることとしている。
- ✓ この取組の一環として、医療情報連携ネットワークの構築や運用を行う際に参考となる情報を一元的に発信するWEBサイトを開設。医療機関等が、導入する地域にふさわしい医療情報連携ネットワークを主体的に構築、運営していくことを支援する。

医療情報連携ネットワーク支援Navi

<http://renkei-support.mhlw.go.jp/>

医療情報連携ネットワーク支援Navi

医療情報連携ネットワークとは | データで見る | ピックアップ事例 | 事例を探す | 構築手順 | FAQ | 用語集 | お役立ち情報

誰もが最適な医療介護サービスを受けられる社会を目指して

どこに住んでいても住み慣れた地域で切れ目ない医療やケアを受けられるための取組みが始まっています。医療情報連携ネットワークは、地域全体で住民の健康を見守るための仕組みです。あなたの地域の医療情報連携ネットワーク作り役立つ情報を発信しています。

医療情報連携ネットワークはなぜ必要？

医療情報連携ネットワークをどう作る？

医療情報連携ネットワークの具体例を見る

お知らせ

ピックアップ事例のネットワーク運営主体サイト

あじさいネット | PICA PICA LINK | 晴れやかネット | びわ湖メディアカルネット

アザレアネット | まめネット | さどひわりネット | 山科医療介護連携ネットワーク

医療情報連携ネットワークの関連団体（標準化団体等）サイト

JAMI | HELICS | Medis | IHE

日本医師会 電子認証センター

医療情報連携ネットワーク運営主体へのインタビューやアンケート調査結果に基づく統計情報等を整理し、構築までの手順、様々な導入事例や実際に構築した地域の声などをまとめて掲載



様々なネットワークの構築・運用事例を紹介（ピックアップ事例）

- 医療情報連携ネットワークの運営主体へインタビューを行い、実際にどのような手順でネットワーク構築を進めたかを掲載。
- 晴れやかネット、まめネット等の8事例を公開。



ネットワーク構築の一般的な流れを紹介（構築手順）

- 医療情報連携ネットワークの構築手順を、①計画、②構築、③運用、④更改の4ステップに分類し、各ステップでの実施事項などを掲載。
- 特に、同意取得方法や標準規格採用などの判断が分かれる事項は、判断の材料となる情報を提供するページを作成。



その他医療情報連携ネットワークに関する様々な情報を紹介

- 全国の医療情報連携ネットワークの導入目的や効果などの統計情報を掲載。
- 全国の医療情報連携ネットワークを地域や目的などの条件で検索可能。
- 医療情報連携ネットワーク関連でよく用いられる用語とその意味を掲載。
- 医療情報連携ネットワークを構築するにあたって参考となる資料やリンクを掲載。

ピックアップ事例①



日本全国の代表的な地域医療NWのうち8つを紹介(順次拡張予定)

| 医療連携ネットワークの名称 (開始年、所在地) | 特徴 | 対象地域 | 運営主体の組織形態 | 共有情報の取得元 | 患者参加同意方法 |
|--|---|------------------------------------|-----------|--|------------------|
| あじさいネット (2004年、長崎県) 2017年3月時点 | 構築から12年間継続運用 | 全県域 | NPO法人 | 病院 検査センター | 参加施設リスト等から連携先を指定 |
| ピカピカリンク (2010年、佐賀県) 2017年3月時点 | 医療従事者が中心となり構築、普及促進を担う別組織を持つNW | 全県域 (アザレアネットと相互接続) | 任意団体 | 病院 健診センター | 受診先の施設毎に連携に同意 |
| アザレアネット (2012年、福岡県久留米医療圏) 2017年3月時点 | 開示施設の自主財源のみでNWを構築 | 二次医療圏 (ピカピカリンク、八女筑後医療情報NWと相互連携) | 任意団体 | 病院 | 受診先の施設毎に連携に同意 |
| さどひまわりネット (2013年、新潟県佐渡医療圏) 2017年3月時点 | 電子カルテを前提にせず、レセコン等活用により小規模医療機関・介護施設との双方向の連携を実現 | 二次医療圏 | NPO法人 | 病院 内科診療所 歯科診療所 薬局 検査センター 介護施設 | 参加施設全ての連携に同意 |

ピックアップ事例②



あじさいネット（平成16年稼働）

特定非営利活動法人 長崎地域医療連携ネットワークシステム協議会（長崎県長崎市）

☎ 095-844-1111 📄 [公式ホームページ](#)

※平成29年2月時点
（ただし、登録患者数や参加機関数は、平成28年11月15日時点の情報を掲載）

全体概要

- 概要
- 特徴
- 成功要因
- ネットワーク構築時の苦労
- 構築する方へのメッセージ

計画Step

- 1. 地域課題、要求事項の抽出
- 2. 必要性の検討
- 3. 連携関係の決定

全体概要

| | |
|-----------|--|
| 対象地域 | 長崎県全域 ※ 運用開始当初は長崎県大村市と諫早市 |
| 構築時の主な関係者 | 大村市医師会 国立病院機構長崎医療センター 市立大村市民病院 関係医療機関 |

ネットワークの構築手順



計画→構築→運用→更改のサイクルを具体的にご紹介します

ネットワークの構築手順

医療情報連携ネットワークには、ネットワーク構築のための計画を作成する「計画」、システムを調達し、構築する「構築」、事業の運用、評価、改善を行う「運用」のステップがあります。また、5年に1度程度の頻度でシステムの更改を行う「更改」ステップがあります。

医療情報連携ネットワークを構築する際のご参考としていただくため、これまでの国事業での検討内容やピックアップ事例等から、各ステップにおける主な実施事項や実施主体、マイルストンの一例を示しています。また、具体的なイメージをお持ちいただくため、全県を対象として医療情報連携ネットワークを構築した事例の実施事項も例示しています。

(注) 記載内容は2016年11月時点のものです。

Step1 計画

Step2 構築

Step3 運用

Step4 更改

ネットワークの構築手順

1. 地域課題、要求事項の抽出 ～ 4. 事業運営主体の組織の設置まで

「5. 個人情報保護方針等の作成～8. 事業計画・収支計画の立案」に移動 >

《表中の表示について》

参：参加機関 運：運営主体／準備主体 シ：システム事業者（医療情報連携ネットワーク構築事業者／電子カルテベンダー／ネットワークベンダー）

◎：主体的に実行する ○：支援する △：必要に応じて対応する -：対応不要

| | 1. 地域課題、要求事項の抽出 | 2. 医療情報連携NWの必要性の検討 | 3. 事業概要の決定 | 4. 組織の設置 |
|------|---|---|---|---|
| 実施事項 | <p>計画推進主体で、医療計画等に基づく地域が目指す医療の在り方に照らして、地域の医療に関する課題やニーズ、要求事項を抽出。 ※必要に応じて地域の医療関係団体や医療従事者等にアンケートやヒアリング調査を実施</p> | <p>1.の課題等の解決方法として医療情報連携NW構築が最適であるか十分検討し、関係者で合意した上で、NW構築に取り組むことを意思決定。 計画推進主体が中心となり地域における医療情報連携NW構築に関する検討組織を作る。</p> | <p>検討組織が中心となり、関係者（参加機関、準備主体、医療機関等）と共同して事業概要を決定する。</p> | <p>検討組織が中心となり、関係者（参加機関、準備主体、医療機関等）と共同して事業運営主体が担うべき役割、責任、役割分担について決定する。</p> |
| 参 | △ | △ | | |
| 運 | ◎ | ◎ | | |
| シ | - | - | | |

医療情報連携ネットワーク構築手順

← 各ステップの途中の表示について →

参：参加機関
運：運営主体／準備主体
シ：システム事業者（医療情報連携ネットワーク構築事業者／電子カルテベンダー／ネットワークベンダー）

◎：主体的に実行する
○：支援する
△：必要に応じて対応する
-：対応不要

PDFでも提供しています



地域医療NWに関する関係資料や用語集をご利用いただけます

資料ダウンロード

政府ガイドライン

- 医療・介護関係事業者における個人情報の適切な取扱いのためのガイダンス
※本ガイダンスは、改正個人情報保護法等の施行の日（2017年5月30日）から適用されます。
- 医療・介護関係事業者における個人情報の適切な取扱いのためのガイドライン
※本ガイドラインは、上記ガイダンスの適用に伴い2017年5月29日をもって廃止されます。
- 医療情報システムの安全管理に関するガイドライン第4.3版
- ASP・SaaSにおける情報セキュリティ対策ガイドライン
- ASP・SaaS事業者が医療情報を取り扱う際の安全管理に関するガイドライン 第1.1版

用語集

A - Z

A - Z

ア



ADL

日常生活動作を指します。人間が毎日の生活を送るための基本的動作群のことであり、①移動動作、②移動動作、③その他（睡眠、コミュニケーションなど）があります。



API

Application Programming Interfaceの略。コンピュータプログラムの機能や管理手段として、データ形式を定めた規約を指します。



DICOM

Digital Imaging and Communication Modelの略。CTやMRI、CRなどで撮影した医療

厚生労働省におけるデータヘルス改革のトピックス

平成28年10月19日 保健医療分野におけるICT活用推進懇談会提言

ICTを活用した「次世代型保健医療システム」の姿とこれを構築するためのAC、工程表を提示

平成28年11月28日 第2回未来投資会議

「医療・介護分野におけるICT活用」について塩崎大臣より提言

平成29年1月12日 厚生労働省データヘルス改革推進本部設置(第1回会合)

大臣を本部長とする厚生労働省データヘルス改革推進本部設置(本部の下に4つのWG)

平成29年4月14日 第7回未来投資会議(新たな医療・介護・予防システムの構築に向けて)

厚生労働省のデータヘルス改革について塩崎大臣より説明

厚生労働省のデータヘルス改革の全体像

- ICT等を活用した「個々人に最適な健康管理・診療・ケア」の提供や、健康・医療・介護のビッグデータを連結した「保健医療データプラットフォーム」の2020年度本格稼働等により、**国民が、世界最高水準の保健医療サービスを、効率的に受けられる環境を整備。**

データヘルス改革の方向性

- ゲノム医療・AI等の最先端技術やビッグデータの活用、ICTインフラの整備などを戦略的、一体的に展開。

- | | |
|----------------|--|
| I 最先端技術の活用 | がんゲノム医療の実現、保健医療分野のAIの開発加速化、遠隔診療・介護ロボット |
| II ビッグデータの活用 | ビッグデータを活用した保険者機能の強化、科学的介護の実現 |
| III ICTインフラの整備 | 保健医療分野のデータ利活用基盤の構築 |

- 本年1月、省内に「データヘルス改革推進本部」を立ち上げ。「改革工程表」に沿って、具体化に向け、加速。

改革工程表（抄） ※2017年1月12日

データヘルス改革推進本部

○本部長：厚生労働大臣

- ※ ICTの専門家が顧問として参画。
- ※ その他、関係局長等を構成員とする。

予防・健康WG

医療WG

介護WG

ビッグデータ連携・整備WG

がんゲノム医療推進
コンソーシアム懇談会

保健医療分野における
AI活用推進懇談会

○支払基金・国保中央会におけるビッグデータ活用推進計画

○保健医療データプラットフォーム構築

○保険者機能の強化
(国保データベースの活用拡大、被用者保険でのビッグデータ活用)



実効的施策を支える『データ利活用基盤』整備の概観

－ 3つのバラバラを解決する、2つの大規模ネットワークと6つのサービス－

- 健康・医療・介護のデータを有機的に連結させたICTインフラを整備。
 - － 国民・患者にとって、最適な健康管理・診療・ケアの提供。データや技術が生み出す果実の還元。
 - － 医療・介護関係者にとって、健康・医療・介護情報の円滑な共有。診療・サービスの効率化・生産性の向上。
 - － 研究者・民間・保険者等にとって、個人のヒストリーとして、健康・医療・介護のビッグデータを分析可能。

個人の健診・診療に関する情報が、バラバラ。個人・患者本位で、最適な健康管理・診療・ケアを提供する基盤が整備されているとは言えない状況。

日本には様々な優れた医療ビッグデータが存在するが、バラバラ。これらの民間活用も進んでない。ビッグデータの価値・果実を国民に還元できていない。

－全国医療情報ネットワーク－

PHR
Personal Health Record

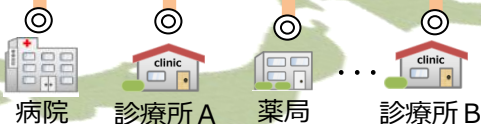


閲覧

国民・患者

患者基本情報や健診情報を想定。初診時等に活用。
さらに基礎的な患者情報を想定。救急時に活用。

保健医療記録共有サービス
救急時医療情報共有サービス
データセンター



ネットワークで患者情報を共有

つなぐ

ひらく

－保健医療データプラットフォーム－

抽出した連結データの解析ツールを提供

データベースから個人単位でデータ抽出



連結解析用サービス

検索・提供サービス

AI利活用基盤を含む、優れたデータベースと個人単位でデータ連結

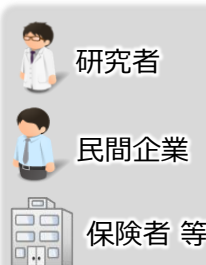
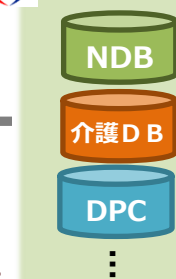
第三者提供(匿名)

人工知能開発環境サービス

ゲノム医療用データベース連結技術

人工知能要素を利用できるクラウドサービス

遺伝子データと患者の治療情報等の連結



つくる

AIやゲノム医療といった最先端技術が生まれても、それを育てる共通基盤がない。

－ AI利活用基盤等－

ご静聴ありがとうございました！

おうきんのう！



夏の一乗谷朝倉氏遺跡